

「ふくひびき」の湛水直播栽培における苗立数が収量へ及ぼす影響を明らかにした（富岡町）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付実証

研究課題名 水稻湛水直播栽培における鳥害の実態把握（富岡町）

担当者 吉田雅貴、菅野拓朗

I 新技術の解説

1 要旨

浜通りでは震災以後、省力化技術として水稻湛水直播栽培が拡大しているが、出芽後から入水前の鳥類による食害が問題となっている。飼料用米「ふくひびき」の湛水直播栽培において、鳥害等の被害を受けても、 m^2 あたり苗立数が18本以上であれば、その後の管理を徹底することで、一穂粒数の増加が補償作用となり、10aあたりの地域平均単収526kg以上の収量が確保できる。

- (1) 収量を地域平均単収とした場合、 m^2 あたり総粒数24,880粒が必要である（図1）。
- (2) m^2 あたり総粒数24,880粒とした場合、 m^2 あたり穂数229本が必要である（図2）。
- (3) m^2 あたり穂数229本とした場合、 m^2 あたり苗立数18本（ m あたり5.4本相当）が必要である（図3）。
- (4) m^2 あたり苗立数18本未満の場合、補償作用では補えず、減収することが示唆された（図4及び5）。

2 期待される効果

- (1) 鳥害等による苗立数減少の際、植え直しや鳥獣対策実施の必要性を適切に判断でき、収量の確保に寄与する。

3 活用上の留意点

- (1) 本実証では、観測できる鳥害が発生しなかったため、該当する苗立数の地点をほ場内から探し調査区とした。
- (2) 本実証では、べんがらモリブデンコーティングを使用し、播種日は5月15日、収穫日は9月10日であった。
- (3) 地域平均単収は、農林水産統計H29～R2の富岡町単収から算出した。

II 具体的データ等

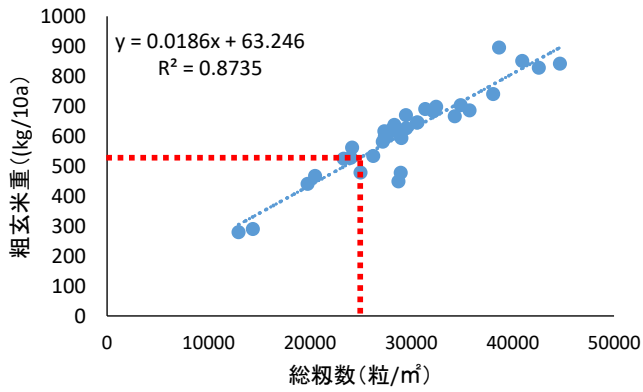


図1 総粒数と粗玄米重

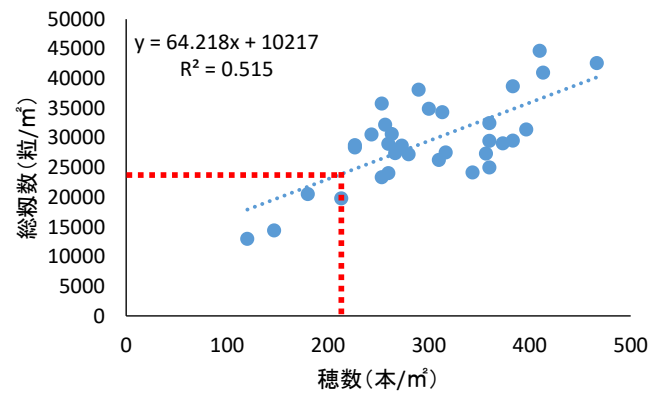


図2 穂数と総粒数

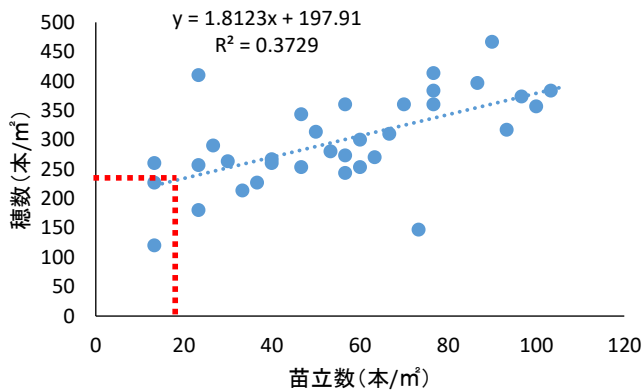


図3 苗立数と穂数

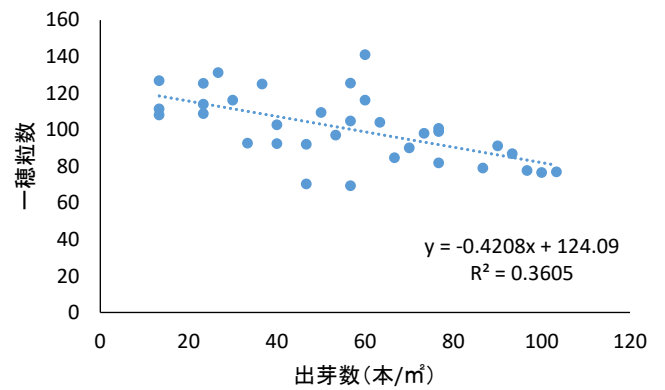


図4 出芽数と一穂粒数

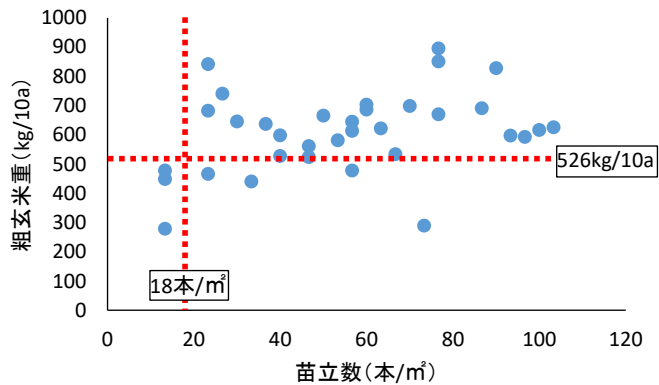


図5 苗立数と粗玄米重

III その他

1 執筆者

吉田雅貴

2 実施期間

令和3年度

3 主な参考文献・資料

- (1) 藤田智博ら, 「ふくひびき」における鉄コーティング直播の苗立ちと穂数・収量への影響, 平成26年度福島県農業総合センター参考成果